

イタリア地方文書館の多様性と独自性

ヴェネツィア大学

ドリット・ライネス

訳・人間文化研究機構・国文学研究資料館 湯上 良

1

イタリアは、おびただしい数の美術品、書籍、手書き文書、その他の文書を保護、管理している国である。まず、ローマ帝国の時代からユスティニアヌス帝の法典によって明文化された法律文化がイタリアで発展したことに一因がある。この法典は、教会法、私法、刑法、行政法、財政法に至るまで、人生のすべてにかかわる法と権利を収集した、紀元後六世紀に完成したローマ帝国の公的な編纂物である。この出版物は、現在のスペイン、フランス、ドイツ、オーストリア、イタリアなど西ヨーロッパで広まっただけでなく、主に官僚制と行政のノウハウをこれらの地域にもたらした。この事實は、八世紀から一八世紀に至る同時代のヨーロッパのいかなる国も比較にはならないものと思われる^①。したがって今日、質と量、継続性において、過去に作成された世界でも稀有な文書が見られ、この膨大な文書の再整理を可能とするアーカイブズ学が早い時期からイタリアで発展していったことは、決して偶然ではないのだ。

イタリアの地方文書館の発展や相違点、存在する多くの事実について触れる前に、イタリアにおけるアーカイブズの現状から出発するのが適切であろう。まず始めに数値や分布について取り上げる。イタリアの国立文書館は各県庁所在地にあり、一〇一館を数える。これらは、イタリア統一以前、すなわち一八六一年より前の国家における中央や地方行政のアーカイブズや、実務終了から四〇年が経過し、納入された統一後の国の地方部局によるアーカイブズを保存している。

南はシチリア、カラブリア、プーリア、バジリカータ、そしてナポリのあるカンパーニヤ州、ローマのあるラツィオ州、中部はトスカーナとエミリア・ロマーニャ、北部はヴェネト、ロンバルディア、ピエモンテ、アルト・アーディジェなど各州の状況を俯瞰していこう。大部分の文書館は、中部に四八館、北西部に三六館、北東部に一七館というように、北部と中部に集中して所在している。この数字は、県庁所在地にある国立文書館に従属する文書館も含んでいる。こうした国立文書館の分館は、県庁所在地ではない場所に三五館あり、その地域の歴史に係る重要なアーカイブズ・フォンドが保存されている。文書館が北部に集中して所在する状況には歴史的な背景があり、後述するようにイタリア半島の歴史を紐解き、素早く概観することで、理解できるであろう。実際に、政治や領域が細分化された歴史を持ち、この事実がイタリアで今日見られるような、数多くの地方文書館を設立する必然性を生み出した。いかなる国であっても、地方文書館の分布を見ていく場合、その理由は、最終的に政治史と地域における権力の分布に求められるであろう。

しかし、ここではイタリア地域における政治権力が、どのように形成されたのかをまず理解することに努めよう。そうすることで行政と文書における、さまざまな文化的な境界線を明確に位置づけることが可能となる。時代は五世紀、四〇六年に始まるフン族の西方への移住によって押し出され、さまざまな人々が帝国の境界線を突破し、ガ

リアとヒスパニアの属州に広がっていった。端的に言うならば、ガリアとダルマチアの一部を除いて、帝国はイタリア半島のみに縮小された。歴史学的な詳細にまで踏み込むことは避けるが、さまざまな勢力の間での戦いの後に西暦八〇〇年頃、イタリアはビザンツ帝国にとつて変わった教皇領、フランク王国の下の大ロンゴバルド、古代のロンゴバルド族、後に君主の地位に上昇するベネヴェント公国の小ロンゴバルドに分割される状況が描かれる。同じ時期、初期にビザンツ帝国に従属していた、さまざまな勢力が自治を獲得し始め、拡大していった。ヴェネツィア、サルデーニヤそしてカンパニーアの諸公国は地方の統治官を選出しつつ、ビザンツから徐々に解放された。九世紀にはアラブ人が西地中海へと何度も進出を企て、猛攻をしかけ、徐々にシチリアを征服し、イタリア南部のビザンツ領を何度も攻撃した。

一世紀には共に権力が弱まった教皇と神聖ローマ帝国との衝突により、北部と中部イタリア都市の豪族が権力を行使し、諸侯や司教を追放した。彼らは皇帝の特権を奪いながら、都市民の公的な活動をさまざまな形で統治する「コムネス(communes)」と呼ばれる共同体に集った。行政権は、高貴な社会階層である貴族から選出された行政官によって担われた彼らは執政官と呼ばれ、「コンシリー consili」と呼ばれる評議会が付き従った。しかし、絶え間ない内部闘争に終止符を打つため、ポデスタと呼ばれた新しい役職である行政長官を導入する必要が生じ、公平な裁きを下すために外国人から選ばれた。これらの都市の中には、アマルフィ、ジェノヴァ、ピサ、ヴェネツィア、ラグーザ、ガエータ、アンコーナ、ノーリなど商業に従事した海洋共和国があったことを頭に留めておこう。同時期に、南部ではシチリア王国が形成された。ノルマンディーからやってきた冒険的精神を持つ人々、ノルマン人は一世紀に南イタリアに到来し、アラブ人からシチリアを奪うことに成功し、数年後、プリンディジとパリーにあったビザンツ帝国最後の砦がノルマン人の手に落ちた。こうして一一三〇年にシチリア王国が誕生した。こ

の世紀の終わりには、婚姻によって王国は神聖ローマ帝国に移った。

一三世紀から一四世紀の北部イタリアは、都市コムーネから領主政へと徐々に変化を遂げていた。高貴な家系の長へ、過剰な権力としばしば終身位の形で、ボデスタやカピターノと呼ばれた都市行政長官職を授与することから始まり、発展していった。この方式は、強力で安定した政府を求める声に応えたもので、地方特有の構造的に安定しない状況や、主に豪族と庶民の間での政治的、社会的な暴力を伴う衝突に終止符を打とうとした。したがって、最も力を持ち、裕福であった領主は、その後継者を選ぶ権限を入手することに成功し、こうして皇帝による合法的な認証を通じて、シニョリーア「領主、君主」による王朝を開くことに道筋をつけた。皇帝は大公の称号を与え、しばしば領主の側から多くの見返りが提供された。一方で、自治コムーネの機構は、領主の決定を追認することのみを行いつつも、形式上は機能し続けたのだ。⁽³⁾

一四、一五世紀のイタリアの政治地図を見ると、この地域に起こった権力の広範囲な細分化が見てとれる。各コムーネ、シニョリーアまたは共和国などでは、地方ごとの利用と政府の形態に応じて、都市機構とその行政、すなわちそのアーカイブズを発展させ始めた。力をもった複数の一族の手に避けがたい権力の集中が進むか、ヴェネツィアやフィレンツェのような裕福な共和国では、一方で、一五世紀の終わり頃には領土の一部が強固なものとなり、一人の君主の庇護下で規模の大きい集合体が生まれた。一四九四年、イタリアへフランス王シャルル八世が侵攻したが、これらの旧体制国家の境界線を本質的には変更しなかった。これより後、アンシャンレジーム期の終わりである一七九七年のナポレオン・ボナパルトによる侵攻まで、君主は変わるものの、境界線は文化的、地方的伝統と共に多かれ少なかれ同じままであった。⁽⁴⁾

したがってイタリア統一直後、生まれたばかりの国家は、国の首都をどこに定めるのかを決定しながら、並行し

て旧体制国家、すなわち統一前に存在した国家の図書館とアーカイブズをどう扱うかという無視できない問題に直面していた。すべての文書を収蔵する中央図書館と、そのかたわらに国立図書館を創設するのか、もしくは各地域の特性、歴史、記憶を尊重し、以前と同じ状態のままにしておくのかについて、検討を行った。首都の問題に関しては、イタリア統一に主導的役割を果たしたサヴォイア王家の行く末と共に一八六一年から首都であったトリノの後、一八六五年には中部に位置することからフィレンツェが選ばれ、一八七一年、王国に併合されたローマにその権利を譲った。⁵⁾

イタリアのアーカイブズに関するいくつかの問題を解決し、統治に必要な図書館規則を定めるため、一八七〇年にチブラーリオ委員会が教育省によって設置された。この名前は、委員長ルイジ・チブラーリオから取られたもので、当時著名な研究者としてだけでなく王国上院議員で国務大臣も務めていた。委員会報告書の序文は、この問題について次のように述べている。「イタリアでは、その地勢や人々の資質、ローマ帝国崩壊後の一連の歴史的事実に基づくよりも、むしろ二つ二つの都市を認識することで合意が得られる。各都市は、ロンドンやパリのように国の栄光、実力、巨大な富を独自に反映するよう、適切な形で、すべての事柄に配慮しなければならない⁶⁾。組織化の問題は政治的なもので、よりよく言い換えれば、首都がトリノからフィレンツェに移動した時代における政治的均衡を映し出したものであり、この一八七〇年の段階でローマの問題は未解決だった。新しい国家は「緩やかな集権体制」と鮮やかに定義された方式で、基本的な選択を完了したばかりだった。そして、この原則の範囲内で、統一し、集中した形の行政手続きによって特徴付けられていた。その一方で、多くの地方からの思惑によって影響を受けた、制約も色濃く反映していた。⁷⁾

アーカイブズがどれだけ国家建設と市民生活の構成要素となりうるのか、という主張から始めながら、委員会は

アーカイブズ整理のため用いられるべき、唯一の方法論として「歴史的方法」と定義される形に同意した³⁾。この方法は、国内での地方文書館の所在地を事実上裏付けることになるので、本稿での基本的な事柄となる。この方法を生み出した、トスカナのアキビストであるフランチェスコ・ボナイニによれば、アキビストの真の業務とは、作成主体とその構造と歴史の研究であり、それは文書に歴史的、機構的な要素を再び導き入れるものでなければならなかった。この研究を通じて、元々存在したものと異なる順序を課すことなく、研究に便宜をはかりつつ、文書群を形成し、整理する条件を完全に理解することが可能となった。

歴史的方法是、次の六つの側面を想定している³⁾。

- 一. 時代ごとの一般的または特殊な政治状況
- 二. 時代ごとの一般的または特殊な機構構造
- 三. アーカイブズの作成主体の属する機関
- 四. 官僚機構の現実。
- 五. 運営方法。
- 六. アーカイブズの実務。

委員会は「過去のもの」と「直近のもの」とを分けてアーカイブズを定義した。前者は、文書の一部を想定し、時代が進むにつれて研究者へ自由な閲覧を許可されうるべきもの。後者は、まだ非公開とすべき文書を指す。一方で過去のものに関しても、直近のものでも、アーカイブズ事業の役割を担う省庁の割り振りを教育省と内務省との間で分割した。同委員会が国立文書館への納入に関して五年から一〇年の間という非常に短い期限を示し、「極めて最近の」文書はいまだに自由に閲覧できなかったため、国立文書館がいわゆる中間書庫的な役割を担う結果となっ

た事実を強調しなければならない。こうして問題に道筋をつけ、「行政的」側面は「歴史的」側面に優越することになり、省庁の選択に関しては、内務省に一本化する方向で確定された。続いて一八七五年、体系的な最初の規定が發布され、それによって国立文書館の一般的な編成規則が定められた。この規定は、アーカイブズを内務省に服属させ、イタリア王国より前に存在した国家の中央省庁の文書は、その国家の首都であった都市に所在する文書館に集められることを宣言しつつ、チブラーリオ委員会の諮問と歴史的右派と呼ばれる人々の政治的、文化的要求を受入れた。¹⁰⁾

いわゆる「緩やかな集権体制」というこの解決方法によって、今日イタリアには独自の歴史文書館を持つ軍、憲法裁判所、議会、共和国大統領府、首相府、外務省を除く省庁の歴史文書を集める国立中央文書館の他に、一〇一の国立文書館が設立されることになったのだ。これらは該当地域に関する過去の文書をそれぞれで管理するだけでなく、地方の団体と県の公証人文書の納入も同時に行っている。

ここからは、なぜ一つの文書館にすべてを集めることが不可能であったのかを明らかにするため、各文書館について分析に入りたい。また、各文書館の特徴と共に、同じような種類の文書の実務と発展についても考えたいと思う。政治体制が互いに異なり、規模の大きな国家活動を反映した四つの大文書館を対象とする。最初に参政権を持つ高位の家系出身者による評議会から構成されたヴェネツィア共和国。現在、その文書館は、書架総延長で八〇キロメートル以上を所蔵し、イタリアで最も規模の大きい文書館である。¹¹⁾そして、六〇〇系統のアーカイブズ・フォンド、書架総延長七五キロメートルを所蔵するフィレンツェ。一方、ミラノは、書類箱、簿冊、記録簿等からなる一八万点以上のアーカイブズと二五万点の羊皮紙文書から構成される書架総延長四〇キロメートルを所蔵し、サヴォイア公国、後に王国となった首都が置かれ、書架総延長八三キロメートルを所蔵するトリノは、大公という個人に

よって指導された政治体制だった。¹⁴⁾

イタリアの旧体制国家に由来するアーカイブズの起源は、非常に似通っている。一世紀の都市ルネサンスと職人活動の復活により、勃興してきた都市民達は、封建的軛と神聖ローマ帝国の権威から自由になるため、新しい政治体制であるコムーネを作り上げながら、共に集った。コムーネ政体は、都市民から成る評議会が基盤となり、彼らが執政官と呼ばれる統治を担う行政官を選出した。そして、適切に選出された最小限の数の都市民が参加した会議の招集と決定事項の記録が行われた。コムーネ内部での決議は、こうした議決過程の円滑な展開をもって有効と考えられていた。

内部から選出した執政官による統治が行われる初期のコムーネと、一二世紀末から一三世紀初めから始まる外部から招集した行政長官による統治が行われる時期との間で区別して考えなければならぬ。¹⁵⁾ 初期には、文書を起草した公証人とコムーネ機関との関係を明確にし、一貫性のある定められた様式は存在しないが、非常に稀なものであり、コムーネの文書作成においては、公証人が独占的に書式を選択していた。¹⁶⁾ 次の時期には、文書処理機能の明確な軌跡が表れる様子がすでに見てとれ、コムーネ、各機関、文書起草者との間で強く、一義的な関係が存在し、コムーネの文書独自の特色が表れ、公的な形式によって関連書物を保存し、発行または複製を行っている。こうした状況はより真の意味で、文書作成を専門とする書記局的な伝統に近づいているのだ。コムーネの文書において、文書作成に関連した政治的、機構的仕組みから構成される、厳格な法的構造が映し出される傾向を帯びたのだ。¹⁷⁾

中世の間、文書館に保存されている文書の公的な証明の核となる部分は、次に見るユスティニアヌス法典内のアーカイブズに関する、定義のままであった。すなわち「法的効力をもたらすのは公的文書を保存している場所次第である」というものがそれに当たる。文書館は、ユス・アルキービ*ius archivi*やユス・アルキヴァーレ*ius*

archive と呼ばれるアーカイブズ権、すなわち公的文書を運用し、誰がこれらの文書を閲覧することができるか、決定する権利を有する者によって構築された。このことは、統治権と密接に関わる事項であり、君主や教皇のみ、または彼らからその権利を得た者のみを対象としていたのだ。

このことから、公証人は文書の起草を行い、公的証明をそれに付与する立場ゆえ、中世の最重要人物となった。また、この点は、彼らによって書かれた文書に与えられた法的効力の源にもなっているのだ。コムネによって公布された初期の文書に、自らの公証人印 *Signum notarie* を押し、公的証明の認知を行ったのは、公証人だった。その時期の君主権は、教皇や皇帝の手にあつたため、コムネは、いまだ証明文書の観点から見れば、私的な存在という条件の下に置かれたのだ。

しかし、公証人がいまだ文書実務を明らかに支配していた時代も、より厳格な行政実務を行うコムネの書記局が誕生した際も、重要な点は、文書の認証過程と、さまざまな種類の文書における「公的証明 *publica fides*」の中に見る厳密な違いに結びついている。この証明は、原本から複製に至るまで、ある種の序列を事実上定めながら行われた。実際に、元々の文書は最初の文書、すなわち原本であると考えられたことは一度もなく、それは公証人文書の下書きで、当局の署名を集めるために書かれ、「要約記録や公証原簿 *abbreviatura*」と呼ばれた。これは、羊皮紙製のベロ状のものに付けられた蠟か金属の封印を含み、偽造に対する注意書きと共に請求者へ交付された。この印章は、手の込んだ署名の形態で、羊皮紙を用いたため値の張る筆記媒体でもあった。したがって要約記録は、時として当局の署名によって証明され、元々の文書を紛失した際に証明として用いられた¹⁸⁾。

イタリアのコムネの文書を巡る出来事では、中世期に以下のような段階が交互に訪れることに特徴が見られる。ある時は、主に神聖ローマ帝国の影響下で、文書の書式が書記機構内部で見られるような特徴を明確に帯びていた。

また他の時期には、神聖ローマ帝国の存在が弱まり、地方の公証人に見られる特徴が優勢となった場合、文書の書式が明らかに私的な形で確立された様式に戻っていく時代となった¹⁹。

次に、本論考で考察する四つの文書館へと目を向けてみよう。これらの文書館に収蔵されているアーカイブズが作成された初期の時代に、真の意味での書記局の設立が見られず、アーカイブズの成り立ちを思い起こさせるような「実行中」の仕事や、均質な行政実務を構築しようとする意識が増していく過程を描き出しているという点で、この四つの文書館は、似通った存在なのだ。さらにここで扱うアーカイブズについては、書記局と公証人の実務が文書作成者から権力者へ向けて作成された文書においても、他の団体や一族に由来し、統治者へ所有権が移転したため、時代を経て国立文書館に同化していった文書においても、多少似た性質をもつ。これらの文書館における初期の文書は、中世初期にさかのぼる。フィレンツェの場合、七二六年の外交アーカイブズである羊皮紙文書がそれに当たり、トリノの場合も同じく七二六年、ヴェネツィアの場合は九世紀のものとなり、八八〇年一月に総督オルソ一世・パルティチーアコがアクイレイア大司教ヴァルベルトと交わした協定がそれに当たり、ミラノの場合、七二二年五月二日の「ムンディオの受領証書 *Cartola de accepto nundio*」と呼ばれる羊皮紙となる。ムンディオとは男性が女性の所有する財産を運用する権利や権限を持つというロングバルド法の制度のことである。しかし、たとえ今日、特定のアーカイブズ・シリーズとして記述できるとしても、これら初期の文書は起草された時点ではそうだったものではなかった。一部は私有、または修道院の文書群に由来し、たとえば、国の元首である総督が署名したヴェネツィアの文書の場合でも、たとえこうした文書が書記局で保管されていたことが知られていても、八八〇年の時点ではアーカイブズ実務やアーカイブズ整理という近代的な視点は存在していなかったのである。

「公的機関の文書公布に関するすべての実務を行う部門」として書記局を定義できるようにするのは、さらに先

の世紀、おおよそ一三世紀頃からと考えられる。その時代、複雑な都市の官僚・行政機構を分化させながら、さまざまな職務や目的をもつ多数の部局に対して、書記局は統合的な役割を担い、中央における基準を定める機能を果たした。⁽²⁰⁾しかし、いくつかの公的文書の起草者として定義された「書記 cancellarius」という称号自体は、国家の文書業務に特別な方法で従事する機関として存在し、そうした機能をもつという仮説を裏証するような充分な証拠は存在しない。事実、総督の文書を起草する場合は、司祭や公証人を兼業していた都市民に委ねられており、当局への特別な従属関係によって結びついてはおらず、文書を作成する能力を必要に応じて提供した。したがって、彼らは、そうした職務を主として私的に行っていたのである。⁽²¹⁾

実際に、一三世紀は国家のアーカイブズの歴史における転換点だった。フランス、イギリスでは、王が宮廷の人々と共にあちらこちらへと移動することを止め、首都に王宮を定めた。イタリアは政治的に安定し、公証人業務の蓄積によって、国家機構が全体的に見直され、結果的に文書群が組織化された。都市で行政官が増加するにつれて、さまざまな場所に文書を分布させ、都市に保管される状況を作り出したため、いまだに真の意味での文書館の設立が行われたとは言えない。

したがって、一四世紀から一八世紀末まで、アーカイブズはイタリアのコムーネにおいても、シニョリア「領主、君主」の元においても、さまざまな都市で今日われわれが目にする形を徐々に形成していくことになるのだ。この過程は、次のような点の特徴として挙げることができるだろう。

第一点目は、都市行政の細分化。それぞれが特定の役目を持つ、さまざまな行政官が創設された。実際、政治的決定を行う評議会の傍らには、次の三種類の行政官が誕生していた。ヴェネツィアを例とすると、まず司法専門官の創設がそれに当たり、国家と臣民の間の事柄も、臣民同士の間での係争も取り扱った。二番目に財政専門官が創

設され、さまざまな種類の直接税や関税・消費税の事項を主として扱い、最後に行政専門官が創設され、国家の業務と関連文書を運用することに熟知した、専門的な官僚機構の発展や成熟における最終段階を表している。

第二点目は、主に協定や法令に関する体系的な集成の作成。例えば、ローマ時代の民会にその起源をもつ公的文書を記録簿に筆写する行為は、一・二・三世紀のヨーロッパ各国の書記局において、すでに広まっていた。さらに、一四世紀半ばのヴェネツィアの総督、アンドレア・ダンドロの意志によって、記録を体系的に集成するよう改革が行われた。ダンドロは、年代記の作者でもあり、立法者や法律家でもあった。彼は国家文書のアーカイブズ化における実務を改革し、次のような集成の編纂を継続するよう書記局に命令を下した。一三世紀の初頭に結ばれた条約をまとめた『リープロ・パクトールム』(Libro Pactorum)に加えて、東方の国々との関係における協定と特権を含む『リーベル・アルプス』(Iber Albus)と、西方の国々に関する同じ内容の『リーベル・ブランクス』(Iber Blancus)を通じて、外交文書の体系的な集成を作成するよう命じた。⁽²²⁾

第三点目は、厳密な方法ではないものの、いくつもの評議会や行政官の間でやり取りされる文書の流れの見取り図や、実務と保管に関する規則が確立されたこと。秘書官達が文書の発信先を書き込む時に残した裏書きに、書類の流れの痕跡を今日でも見ることができ。さらに時代を経ると、送付先が遠隔地で、運送業者などを通して送付された場合、文書にその旨が記載された。⁽²³⁾

第四点目は、公的文書に証明を与えるか、またはそれを希望した場合、当局のみが交付できることを保証するため、元々は公証人を起源とする実務を採用したこと。こうして文書の原本との関係に応じて、等級が誕生した。記録簿内に綴じられておらず、一枚紙の状態にある各文書において、それが原本なのか、原本の複製なのか、複製の複製であるのかが記された。公的に交付された文書の場合、「証明」、つまり文書内で宣言された事実が真実である

ことを、印章を付け加え続ける形で証明した。²⁴

ここまで、われわれはイタリアのさまざまな場所に文書館が創設された基礎的な背景を俯瞰した。ここからは、すでに見てきた四つの文書館に收藏されたアーカイブズ構造の比較へ進んでいくことにしよう。すでにこの時点で最初の障害に出会うこととなる。ヴェネツィアでは、アーカイブズと行政が組織化された一三世紀から、一七九七年の共和国崩壊まで行政の継続性を見出すことができる一方で、²⁵ フィレンツェは同じような状況ではない。そこでは最初、共和国としてその歩みを開始し、その後一三八二年から一四三四年の間、さまざまな行政官から成る寡頭政によって統治された。それは、一五三二年から始まるメディチ家が大公となった時代に行われたものとも、さらにロレーナ家の時代とも異なるものなのだ。²⁶ 後者は、一七三七年にロレーナ家の公爵で、オーストリアのマリア・テレジアの夫であるフランチェスコ・ステーファノがオーストリア王家の衛星国家の中へとトスカーナを併合した時代である。ミラノの旧体制時代のアーカイブズも都市の歴史において主要な二つの時代を同じように反映している。内部で二つに割れた一四から一六世紀のヴィスコンティ―スフォルツァ家のものと、その次の時代のスペイン―オーストリア期がそれに当たる。²⁷

細かく枝分かれしたヴェネツィアの行政機構は、ここで検討している他の三つのアーカイブズとは異なり、特徴的な現象も生み出している。評議会と行政官の独立性を基盤に構成され、「静謐なる共和国」とも呼ばれたヴェネツィアの一途さも相まって、一目見ればすぐにわかるほど枝分かれし、細分化された組織構造が反映されている。そうした状況ゆえに、他の文書館で見られるような「テーマごと」にまとめられた分類方式に全く付け入る余地を与えないのだ。せいぜい一八世紀の間に、複製ではあるものの、テーマごとに整理され、法令がアルファベット順に並べられ、要約された、新しい文書群の創設がそれに当てはまる程度である。一六六二年から作成が開始された

『法典集成 *Compilazione Leggi*』と呼ばれる文書群がそれに当たる²⁸。実際、主にトリノとミラノの文書館の事例では、外国との交渉、すなわち外交文書、協定書、証書、勅書、小勅書などは別個に扱われた。トリノでは、「外国関連政策」の項目の元、王宮アーカイブズ内部に収められ、一方ミラノでは政府関連のアーカイブズとは別に外交関連アーカイブズが所在している²⁹。フィレンツェについては、ロレーナ家の君主ピエトロ・レオポルドの布告によって、外交アーカイブズが大公国、コムーネ、慈善事業関連の中央・地方部局ごとに羊皮紙文書の形でまとめられ、一七七八年に組織化された³¹。

テーマごとにまとめるこうした方法は、トリノでは一八世紀に行われ、ミラノでは一九世紀に行われたオーストリアによる再編成によってもたらされた。実際にトリノでは、アーキビストのクレが一七〇七年から一七一七年の間に七五の目録を作り上げ、目録には、マダーマ宮から新しい王宮へと一七〇七年に移された文書の新しい整理方法が反映された。クレの目録化作業は、サヴォイア家の国家にとって政治的にも軍事的にも劇的な変化に富む時代に行われた。しかし、法律に関する知識は、国内的にも、国際的にも根底から変化する直前に不可欠なものとなり、こうした変化は、改革と平和協約に結びついていたのだ。この時代に編纂された七五の目録の内、「一七一一年から一七二〇年」との年度が書かれた一五の目録は、いまだに利用されている。下書きを行う際に採用された基準は、政府を機能させるための課題について、文書を編成することだった³²。

一方、ミラノの事例では、宰相でありウィーンの帝国文書館のアーキピスト長であったカウニッツ卿によって一七八一年に設立されたミラノの総督文書館が、ヴィスコンティースフォルツァ時代のアーカイブズ、スペインやハプスブルク統治時代の書記局、機密評議会の各アーカイブズ、臨時評議会や臨時政府アーカイブズ、君主文書を含む法規集に加え、議会文書館の創設にも着手した。この文書館には、常勤や臨時の行政官、国庫に関わる新しい

行政官、一七六五年から一七七一年の改革評議会、経済高等評議会、国家上院議会、会計院の文書も合流した。³⁸⁾

したがって、効率化を目的に繰り返し実施された再編成によって、初期のアーカイブズ構造に取り返しのでないほど変化がもたらされたため、現在では、アーカイブズ内の時代的な要素に基づいて比較を行うことは、困難である。この再編成においては時として、文書の歴史的な出所に従わず、テーマに沿って文書を統合し、作成主体と文書シリーズの間にあつた関連性を除去してすらいふのだ。

ナポレオン時代から始まり、一八〇五年から一八一四年にかけて続くイタリア王国時代の状況は異なっている。

この二つの時代の間にはイタリアの文書館へ合流し始めた資料は、イタリア北部から中部にかけて、ほぼすべての領域が一つの中央政府に関連付けられていたので、極めて均質なものになっている。続く時代にアーカイブズの観点から見れば、混乱した状態に舞い戻った。一八一四年から一八一五年のウィーン会議によってイタリアは次のような国へと分割された。

* オーストリア支配下のサルデーニャ王国

* ロンバルド・ヴェネト王国

* パルマ・モデナ公国

* トスカーナ大公国

* 教皇領

* ブルボン朝支配下の両シチリア王国

その結果、各支配地域では個別にアーカイブズが組織化された。フィレンツェでは一八一四年以降、一つの機関ごとだけではなく、さまざまな部局で勤務していた集団ごとに共和国時代と、すでに途絶えたメディチ家時代の行

政官のアーカイブズを収集する作業を続けた。こうして一八一七年にトスカーナでは、廃止された宗教団体の文書を集めた中央文書館が創設された。一八一八年には、すでに廃止されていたアーカイブズ総合保存機関で保管されていたものと共に、メディチ関連のアーカイブズが王室顧問部局の運営の元に置かれた。こうした断続的な再編成によって、文書群が元々持ち合わせていた性質は変化していったのだ。⁽³⁴⁾

トリノにおける、こうした問題は、これまでに見た都市とは異なる順序で展開された。フランス統治下の時代、次のように幅広い分野から多数の文書が引き出された。近年一〇年の外交文書、地勢図、ピエモンテ管轄の県令やサヴォイアとニースの旧管区、チザルピーナ共和国、そして主にパリの帝国文書館に送られるべく選ばれた、文書のすべてなどがそれに当たると。一八〇四年に建築家ユヴァツラによって建てられた文書館の建物は、文書を集中的に収蔵する役割に適していないと考えられ、文書は地方部局へと散逸した。ユヴァツラが建設した館が元の利用用途に戻ったのは、一八一四年から一八四八年の間、王室文書館事業に尽力した官吏達の手によるものである。さまざまな場所に移転した文書を回復した後、ユヴァツラの館の部屋にもたらされた状況は、劇的なものであった。一八二〇年から一八三九年に着手した作業では、収蔵場所の再編成と文書全体の再整理という二つの方針が実施された。⁽³⁵⁾

ミラノでは一八一四年以降、元の呼び名を再び採用した総督文書館が一八〇五年から一八一四年に設置されたイタリア王国における省庁のアーカイブズ、及び一八一四年から一八一五年の摂政・全権大使政府時代のアーカイブズと共に収蔵量を増加させた。しかし、一八一五年から一八五二年の間、自主的に活動していた外交部門のアーカイブズは廃棄された。一八〇二年にナポレオン統治下のイタリア共和国における司法文書館は、内務省管轄となっていたが、一八二三年、司法文書館も総督文書館管轄に置かれた。⁽³⁶⁾

ヴェネツィアの状況は、やや他とは異なるものだった。共和国崩壊後にやってきた支配者達によって徐々にパリ、ミラノ、ウィーンへ運ばれ、特に機密文書を中心に行われたヴェネツィアのアーカイブズの全部門への繰り返し略奪が行われた。しかし、アーカイブズの元々の構造を混乱させることはなく、後にこれらの文書は、大部分が返還されることとなった。このアーカイブズを世界で最も巨大なものの一つとすることに貢献したのは、むしろ第一次オーストリア支配下で総合文書館における集中管理を目指すプロジェクトだった。アーキビストのヤコポ・キオードは、フラリーの修道院跡にすべてのアーカイブズを運び込む許可をオーストリアの皇帝から獲得した。元々のフォンドと一九世紀初期のものとの統合に関しては考慮せず、以前にさまざまな部局の間で散逸していたものも含めた。一八八四年には法律の規定によって、一八三〇年までの公証人アーカイブズを入手した。⁽³⁷⁾

ここまで、イタリア全土における現在のアーカイブズの分布状況を見てきた。手短ではあるが、次の疑問について答えたい。これだけ混乱した状況にありながら、文化財省のアーカイブズ総局によるサン(SAN)・プロジェクトを通じて、どのように全土に広がったアーカイブズに対して、高度に統合された形でアクセスできる手段を提供するのだろうか。

SANは、全国アーカイブズ・システム、Sistema Archivistico Nazionaleの略称⁽³⁸⁾で、本質的には文化プロジェクトである。今日、発達したアーカイブズ情報システムの数々は、連携の取れた形に編成され、「知的好奇心を刺激する」アーカイブズ情報ウェブサイトを通じて情報が拡がる可能性を保証し、確実に貢献している。アーカイブズ情報システムの根底に流れる目的は、その次の段階を達成すること、すなわち受益者の観点からアーカイブズ財を特徴付け、さまざまな情報を構成する各要素を調和させ、柔軟性のある研究手順と、ここまで見てきたような複

雑な状況との再構築を可能とし、再整理をすることにある。アーカイブズ分野でもオンラインでの調査は、もはや完全に仕事的手段となり、現実的にそういった形になっていなければならないという事実を認識しなければならないのだ。

したがってサンの目的は、

* Find、つまり探しているアーカイブズを、見つけ出し、

* Identify、つまり差別化可能な特徴を利用して、見つけ出したものを一義的に確認し、

* Select、つまり見つけ出し、確認したものの中から、実行中の調査目的において重要なものを選び出し、

* Obtain、つまり選ばれたものを画面上や実際の閲覧を通して手に入れる

ということから成り立っている。

これと並行して、次の二つのシステムが生まれた。すなわち、

* シーアス SAS —— 国立文書館情報システム

* シューザ SUSA —— 非国有で、地方公共団体や私的性質を持ったアーカイブズ財を担当する文書保護局

による統合情報システム

がそれに当たる。

この発想の源は、地方の国立文書館と文書保護局と共に、州レベルで運営されている地方のシステムを仲介して、国立文書館に保管されているアーカイブズと非国有のアーカイブズを結びつけることにある。

ワーキンググループの成果により、現在イタリアでは次のような結果と共に全国アーカイブズ・システムのポータルサイトを提供できる段階にある。^{②③}

* 国立文書館一〇一館の内、八八館がウェブ上に何らかの形で存在している。

* 八八館の内、二九館が当局のホームページ上で利用可能な標準仕様をなんらかの形で利用し、四四館がさまざまな方法で、より分化した形の情報資源を提供している。

* 一七機関が文化財省ドメインを使用し、二七機関が独自の方法で展開している。

さらにアーカイブズ財とデジタル・ライブラリーのカタログは、次のような数値を提供している。⁽⁴⁾

保存主体数 — 八六五 —

作成主体数 — 六三三七六 —

アーカイブズ点数 — 八四六八九 —

公開研究用資料数 — 一七五〇〇 —

デジタル化点数 — 三三三三三三四 —

デジタル化プロジェクト数 — 二二六九 —

しかし、トリノやナポリが実りある調査を保証するオンライン目録ではなく、紙目録のスキャン等をベースとした探索補助資料のみを掲載している一方で、ミラノのような規模の大きい文書館がプロジェクト内に名を連ねていないことは決して小さなことではない。またヴェネツィアとローマも独自のプロジェクトを発展させている。

イタリアは、おびただしい数の芸術品、書籍、手書き文書、その他の文書を保存している国であるということ了指摘しながら、本論考を開始した。特に、文書に関しては、その特性上、壮大で複雑なものである。さて、今日ではより壮大なアーカイブズから、より地域性の強いアーカイブズに至るまで、統一され、知的欲求に答える仕組みが存在する。ここでは利用者がアーカイブズ文書を、時にはデジタル化された形で好きなように閲覧ができ、研究

活動を改善させている。もちろん、いまだに問題は存在するが、この仕組みは機能し、アーカイブズの真の目的に向かつて巨大な一歩を印しているのだ。真の目的、すなわち公共の用に供し、透明性を備え、いつでもアクセス可能とすることがそれに当たるとする。

本論文は、中京大学特定研究「公文書管理制度に関する国際比較研究」によって、二〇一四年一月に開催された中京大学社会科学研究所学術講演会での講演内容を基に論文として再構成したものである。

註

- (1) Aldo Cenderelli "Corpus Iuris Civilis", in *Scritti romanistici*, a cura di Chiara Buzzacchi, Milano, Università degli studi di Milano Bicocca, Giuffrè, 2011, pp. 333-358.
- (2) Maria Barbara Bertini, *Che cos'è un archivio*, Roma, Carocci, 2008, p. 26 [邦訳：湯上 良 (訳) 『アーカイブとは何か——石版からデジタル文書まで。インターネットにおける文書管理』、法政大学出版局、二〇一二年「三五五頁」]。同書の出版から二〇一三年までに行われた文化財倉庫の集計・発表による「全国の国立文書館の数は、一〇一館と三三三の分館から構成される。次のURLを参照。
http://www.statistica.beniculturali.it/Archivi_di_stato.htm 二〇一五年 一〇月九日閲覧
- (3) Giorgio Ravegnani, *I Bizantini in Italia*, Bologna, Il Mulino 2004; Giovanni Tabacco, *Egemonie sociali e strutture del potere nel medioevo italiano*, Torino, Einaudi, 2000.
- (4) *I percorsi della storia - atlante*, Milano, Istituto Geografico De Agostini, 1997.
- (5) Attilio Brilli, *Il viaggio della capitale*, Torino, Firenze e Roma dopo l'Unità d'Italia, Torino, UTET, 2010.
- (6) 次の論文からの引用。"Actenstücke, die Neugestaltung der Bibliotheken des Königreiches Italien Betreffend", *Neuer Anzeiger für Bibliographie und Bibliothekswissenschaft*, 18 (novembre 1869), a cura di Julius Petzholdt; pp. 337-343.

- "Sul riordinamento degli Archivi di Stato", Relazione della Commissione istituita dai Ministri dell'Interno e della Pubblica Istruzione con decreto 15 marzo 1870:
<http://www.icar.beniculturali.it/biblio/pdf/Studi/cibario.pdf>, 110 | 111 | 112 | 113 | 114 | 115 | 116 | 117 | 118 | 119 | 120 | 121 | 122 | 123 | 124 | 125 | 126 | 127 | 128 | 129 | 130 | 131 | 132 | 133 | 134 | 135 | 136 | 137 | 138 | 139 | 140 | 141 | 142 | 143 | 144 | 145 | 146 | 147 | 148 | 149 | 150 | 151 | 152 | 153 | 154 | 155 | 156 | 157 | 158 | 159 | 160 | 161 | 162 | 163 | 164 | 165 | 166 | 167 | 168 | 169 | 170 | 171 | 172 | 173 | 174 | 175 | 176 | 177 | 178 | 179 | 180 | 181 | 182 | 183 | 184 | 185 | 186 | 187 | 188 | 189 | 190 | 191 | 192 | 193 | 194 | 195 | 196 | 197 | 198 | 199 | 200 | 201 | 202 | 203 | 204 | 205 | 206 | 207 | 208 | 209 | 210 | 211 | 212 | 213 | 214 | 215 | 216 | 217 | 218 | 219 | 220 | 221 | 222 | 223 | 224 | 225 | 226 | 227 | 228 | 229 | 230 | 231 | 232 | 233 | 234 | 235 | 236 | 237 | 238 | 239 | 240 | 241 | 242 | 243 | 244 | 245 | 246 | 247 | 248 | 249 | 250 | 251 | 252 | 253 | 254 | 255 | 256 | 257 | 258 | 259 | 260 | 261 | 262 | 263 | 264 | 265 | 266 | 267 | 268 | 269 | 270 | 271 | 272 | 273 | 274 | 275 | 276 | 277 | 278 | 279 | 280 | 281 | 282 | 283 | 284 | 285 | 286 | 287 | 288 | 289 | 290 | 291 | 292 | 293 | 294 | 295 | 296 | 297 | 298 | 299 | 300 | 301 | 302 | 303 | 304 | 305 | 306 | 307 | 308 | 309 | 310 | 311 | 312 | 313 | 314 | 315 | 316 | 317 | 318 | 319 | 320 | 321 | 322 | 323 | 324 | 325 | 326 | 327 | 328 | 329 | 330 | 331 | 332 | 333 | 334 | 335 | 336 | 337 | 338 | 339 | 340 | 341 | 342 | 343 | 344 | 345 | 346 | 347 | 348 | 349 | 350 | 351 | 352 | 353 | 354 | 355 | 356 | 357 | 358 | 359 | 360 | 361 | 362 | 363 | 364 | 365 | 366 | 367 | 368 | 369 | 370 | 371 | 372 | 373 | 374 | 375 | 376 | 377 | 378 | 379 | 380 | 381 | 382 | 383 | 384 | 385 | 386 | 387 | 388 | 389 | 390 | 391 | 392 | 393 | 394 | 395 | 396 | 397 | 398 | 399 | 400 | 401 | 402 | 403 | 404 | 405 | 406 | 407 | 408 | 409 | 410 | 411 | 412 | 413 | 414 | 415 | 416 | 417 | 418 | 419 | 420 | 421 | 422 | 423 | 424 | 425 | 426 | 427 | 428 | 429 | 430 | 431 | 432 | 433 | 434 | 435 | 436 | 437 | 438 | 439 | 440 | 441 | 442 | 443 | 444 | 445 | 446 | 447 | 448 | 449 | 450 | 451 | 452 | 453 | 454 | 455 | 456 | 457 | 458 | 459 | 460 | 461 | 462 | 463 | 464 | 465 | 466 | 467 | 468 | 469 | 470 | 471 | 472 | 473 | 474 | 475 | 476 | 477 | 478 | 479 | 480 | 481 | 482 | 483 | 484 | 485 | 486 | 487 | 488 | 489 | 490 | 491 | 492 | 493 | 494 | 495 | 496 | 497 | 498 | 499 | 500 | 501 | 502 | 503 | 504 | 505 | 506 | 507 | 508 | 509 | 510 | 511 | 512 | 513 | 514 | 515 | 516 | 517 | 518 | 519 | 520 | 521 | 522 | 523 | 524 | 525 | 526 | 527 | 528 | 529 | 530 | 531 | 532 | 533 | 534 | 535 | 536 | 537 | 538 | 539 | 540 | 541 | 542 | 543 | 544 | 545 | 546 | 547 | 548 | 549 | 550 | 551 | 552 | 553 | 554 | 555 | 556 | 557 | 558 | 559 | 560 | 561 | 562 | 563 | 564 | 565 | 566 | 567 | 568 | 569 | 570 | 571 | 572 | 573 | 574 | 575 | 576 | 577 | 578 | 579 | 580 | 581 | 582 | 583 | 584 | 585 | 586 | 587 | 588 | 589 | 590 | 591 | 592 | 593 | 594 | 595 | 596 | 597 | 598 | 599 | 600 | 601 | 602 | 603 | 604 | 605 | 606 | 607 | 608 | 609 | 610 | 611 | 612 | 613 | 614 | 615 | 616 | 617 | 618 | 619 | 620 | 621 | 622 | 623 | 624 | 625 | 626 | 627 | 628 | 629 | 630 | 631 | 632 | 633 | 634 | 635 | 636 | 637 | 638 | 639 | 640 | 641 | 642 | 643 | 644 | 645 | 646 | 647 | 648 | 649 | 650 | 651 | 652 | 653 | 654 | 655 | 656 | 657 | 658 | 659 | 660 | 661 | 662 | 663 | 664 | 665 | 666 | 667 | 668 | 669 | 670 | 671 | 672 | 673 | 674 | 675 | 676 | 677 | 678 | 679 | 680 | 681 | 682 | 683 | 684 | 685 | 686 | 687 | 688 | 689 | 690 | 691 | 692 | 693 | 694 | 695 | 696 | 697 | 698 | 699 | 700 | 701 | 702 | 703 | 704 | 705 | 706 | 707 | 708 | 709 | 710 | 711 | 712 | 713 | 714 | 715 | 716 | 717 | 718 | 719 | 720 | 721 | 722 | 723 | 724 | 725 | 726 | 727 | 728 | 729 | 730 | 731 | 732 | 733 | 734 | 735 | 736 | 737 | 738 | 739 | 740 | 741 | 742 | 743 | 744 | 745 | 746 | 747 | 748 | 749 | 750 | 751 | 752 | 753 | 754 | 755 | 756 | 757 | 758 | 759 | 760 | 761 | 762 | 763 | 764 | 765 | 766 | 767 | 768 | 769 | 770 | 771 | 772 | 773 | 774 | 775 | 776 | 777 | 778 | 779 | 780 | 781 | 782 | 783 | 784 | 785 | 786 | 787 | 788 | 789 | 790 | 791 | 792 | 793 | 794 | 795 | 796 | 797 | 798 | 799 | 800 | 801 | 802 | 803 | 804 | 805 | 806 | 807 | 808 | 809 | 810 | 811 | 812 | 813 | 814 | 815 | 816 | 817 | 818 | 819 | 820 | 821 | 822 | 823 | 824 | 825 | 826 | 827 | 828 | 829 | 830 | 831 | 832 | 833 | 834 | 835 | 836 | 837 | 838 | 839 | 840 | 841 | 842 | 843 | 844 | 845 | 846 | 847 | 848 | 849 | 850 | 851 | 852 | 853 | 854 | 855 | 856 | 857 | 858 | 859 | 860 | 861 | 862 | 863 | 864 | 865 | 866 | 867 | 868 | 869 | 870 | 871 | 872 | 873 | 874 | 875 | 876 | 877 | 878 | 879 | 880 | 881 | 882 | 883 | 884 | 885 | 886 | 887 | 888 | 889 | 890 | 891 | 892 | 893 | 894 | 895 | 896 | 897 | 898 | 899 | 900 | 901 | 902 | 903 | 904 | 905 | 906 | 907 | 908 | 909 | 910 | 911 | 912 | 913 | 914 | 915 | 916 | 917 | 918 | 919 | 920 | 921 | 922 | 923 | 924 | 925 | 926 | 927 | 928 | 929 | 930 | 931 | 932 | 933 | 934 | 935 | 936 | 937 | 938 | 939 | 940 | 941 | 942 | 943 | 944 | 945 | 946 | 947 | 948 | 949 | 950 | 951 | 952 | 953 | 954 | 955 | 956 | 957 | 958 | 959 | 960 | 961 | 962 | 963 | 964 | 965 | 966 | 967 | 968 | 969 | 970 | 971 | 972 | 973 | 974 | 975 | 976 | 977 | 978 | 979 | 980 | 981 | 982 | 983 | 984 | 985 | 986 | 987 | 988 | 989 | 990 | 991 | 992 | 993 | 994 | 995 | 996 | 997 | 998 | 999 | 1000
- (7) Francesco Ingravalle, "Dalla L. 23 ottobre 1859 alla L. 20 marzo 1865: Urbano Battazzi tra centralismo e "discentramento", in *L'altro Piemonte e l'Italia nella* *età di Urbano Rattazzi*, a cura di Renato Balduzzi, Robertino Ghiringhelli e Corrado Malandrino, Milano, Giuffrè Editore, 2009, pp. 153-168.
- (8) "Sul riordinamento degli Archivi di Stato", cit.
- (9) 藤田 密太郎 (1875) Francesco Bonaini, Antonio Panizzi, Di alcune principali questioni sugli Archivi italiani, Lucca, Tipografia Giusti, Lucca 1867; Elio Lodolini, Archivistica. Principi e problemi, Milano, FrancoAngeli, 2008, pp. 204-210; Diana Toccafondi, "Archivi, retorica e filologia: il metodo storico bonainiano nel passaggio verso l'Unità d'Italia", in *Archivi e storia nell'Europa del XIX secolo. Alle radici dell'identità culturale europea. Atti del convegno internazionale di studi nei 150 anni dall'istituzione dell'Archivio Centrale poi Archivio di Stato di Firenze*, Firenze, 4-7 dicembre 2002, a cura di Irene Cotta e Rosalia Manno Tolu, Roma, Ministero per i Beni e le Attività culturali, Direzione generale per gli archivi, 2006, t. 1, pp. 249-260, disponibile in: http://www.archiviodistato.firenze.it/nuovosito/fileadmin/template/allegati_media/libri/150_Archivi_Storia/150_Toccafondi.pdf | 110 | 111 | 112 | 113 | 114 | 115 | 116 | 117 | 118 | 119 | 120 | 121 | 122 | 123 | 124 | 125 | 126 | 127 | 128 | 129 | 130 | 131 | 132 | 133 | 134 | 135 | 136 | 137 | 138 | 139 | 140 | 141 | 142 | 143 | 144 | 145 | 146 | 147 | 148 | 149 | 150 | 151 | 152 | 153 | 154 | 155 | 156 | 157 | 158 | 159 | 160 | 161 | 162 | 163 | 164 | 165 | 166 | 167 | 168 | 169 | 170 | 171 | 172 | 173 | 174 | 175 | 176 | 177 | 178 | 179 | 180 | 181 | 182 | 183 | 184 | 185 | 186 | 187 | 188 | 189 | 190 | 191 | 192 | 193 | 194 | 195 | 196 | 197 | 198 | 199 | 200 | 201 | 202 | 203 | 204 | 205 | 206 | 207 | 208 | 209 | 210 | 211 | 212 | 213 | 214 | 215 | 216 | 217 | 218 | 219 | 220 | 221 | 222 | 223 | 224 | 225 | 226 | 227 | 228 | 229 | 230 | 231 | 232 | 233 | 234 | 235 | 236 | 237 | 238 | 239 | 240 | 241 | 242 | 243 | 244 | 245 | 246 | 247 | 248 | 249 | 250 | 251 | 252 | 253 | 254 | 255 | 256 | 257 | 258 | 259 | 260 | 261 | 262 | 263 | 264 | 265 | 266 | 267 | 268 | 269 | 270 | 271 | 272 | 273 | 274 | 275 | 276 | 277 | 278 | 279 | 280 | 281 | 282 | 283 | 284 | 285 | 286 | 287 | 288 | 289 | 290 | 291 | 292 | 293 | 294 | 295 | 296 | 297 | 298 | 299 | 300 | 301 | 302 | 303 | 304 | 305 | 306 | 307 | 308 | 309 | 310 | 311 | 312 | 313 | 314 | 315 | 316 | 317 | 318 | 319 | 320 | 321 | 322 | 323 | 324 | 325 | 326 | 327 | 328 | 329 | 330 | 331 | 332 | 333 | 334 | 335 | 336 | 337 | 338 | 339 | 340 | 341 | 342 | 343 | 344 | 345 | 346 | 347 | 348 | 349 | 350 | 351 | 352 | 353 | 354 | 355 | 356 | 357 | 358 | 359 | 360 | 361 | 362 | 363 | 364 | 365 | 366 | 367 | 368 | 369 | 370 | 371 | 372 | 373 | 374 | 375 | 376 | 377 | 378 | 379 | 380 | 381 | 382 | 383 | 384 | 385 | 386 | 387 | 388 | 389 | 390 | 391 | 392 | 393 | 394 | 395 | 396 | 397 | 398 | 399 | 400 | 401 | 402 | 403 | 404 | 405 | 406 | 407 | 408 | 409 | 410 | 411 | 412 | 413 | 414 | 415 | 416 | 417 | 418 | 419 | 420 | 421 | 422 | 423 | 424 | 425 | 426 | 427 | 428 | 429 | 430 | 431 | 432 | 433 | 434 | 435 | 436 | 437 | 438 | 439 | 440 | 441 | 442 | 443 | 444 | 445 | 446 | 447 | 448 | 449 | 450 | 451 | 452 | 453 | 454 | 455 | 456 | 457 | 458 | 459 | 460 | 461 | 462 | 463 | 464 | 465 | 466 | 467 | 468 | 469 | 470 | 471 | 472 | 473 | 474 | 475 | 476 | 477 | 478 | 479 | 480 | 481 | 482 | 483 | 484 | 485 | 486 | 487 | 488 | 489 | 490 | 491 | 492 | 493 | 494 | 495 | 496 | 497 | 498 | 499 | 500 | 501 | 502 | 503 | 504 | 505 | 506 | 507 | 508 | 509 | 510 | 511 | 512 | 513 | 514 | 515 | 516 | 517 | 518 | 519 | 520 | 521 | 522 | 523 | 524 | 525 | 526 | 527 | 528 | 529 | 530 | 531 | 532 | 533 | 534 | 535 | 536 | 537 | 538 | 539 | 540 | 541 | 542 | 543 | 544 | 545 | 546 | 547 | 548 | 549 | 550 | 551 | 552 | 553 | 554 | 555 | 556 | 557 | 558 | 559 | 560 | 561 | 562 | 563 | 564 | 565 | 566 | 567 | 568 | 569 | 570 | 571 | 572 | 573 | 574 | 575 | 576 | 577 | 578 | 579 | 580 | 581 | 582 | 583 | 584 | 585 | 586 | 587 | 588 | 589 | 590 | 591 | 592 | 593 | 594 | 595 | 596 | 597 | 598 | 599 | 600 | 601 | 602 | 603 | 604 | 605 | 606 | 607 | 608 | 609 | 610 | 611 | 612 | 613 | 614 | 615 | 616 | 617 | 618 | 619 | 620 | 621 | 622 | 623 | 624 | 625 | 626 | 627 | 628 | 629 | 630 | 631 | 632 | 633 | 634 | 635 | 636 | 637 | 638 | 639 | 640 | 641 | 642 | 643 | 644 | 645 | 646 | 647 | 648 | 649 | 650 | 651 | 652 | 653 | 654 | 655 | 656 | 657 | 658 | 659 | 660 | 661 | 662 | 663 | 664 | 665 | 666 | 667 | 668 | 669 | 670 | 671 | 672 | 673 | 674 | 675 | 676 | 677 | 678 | 679 | 680 | 681 | 682 | 683 | 684 | 685 | 686 | 687 | 688 | 689 | 690 | 691 | 692 | 693 | 694 | 695 | 696 | 697 | 698 | 699 | 700 | 701 | 702 | 703 | 704 | 705 | 706 | 707 | 708 | 709 | 710 | 711 | 712 | 713 | 714 | 715 | 716 | 717 | 718 | 719 | 720 | 721 | 722 | 723 | 724 | 725 | 726 | 727 | 728 | 729 | 730 | 731 | 732 | 733 | 734 | 735 | 736 | 737 | 738 | 739 | 740 | 741 | 742 | 743 | 744 | 745 | 746 | 747 | 748 | 749 | 750 | 751 | 752 | 753 | 754 | 755 | 756 | 757 | 758 | 759 | 760 | 761 | 762 | 763 | 764 | 765 | 766 | 767 | 768 | 769 | 770 | 771 | 772 | 773 | 774 | 775 | 776 | 777 | 778 | 779 | 780 | 781 | 782 | 783 | 784 | 785 | 786 | 787 | 788 | 789 | 790 | 791 | 792 | 793 | 794 | 795 | 796 | 797 | 798 | 799 | 800 | 801 | 802 | 803 | 804 | 805 | 806 | 807 | 808 | 809 | 810 | 811 | 812 | 813 | 814 | 815 | 816 | 817 | 818 | 819 | 820 | 821 | 822 | 823 | 824 | 825 | 826 | 827 | 828 | 829 | 830 | 831 | 832 | 833 | 834 | 835 | 836 | 837 | 838 | 839 | 840 | 841 | 842 | 843 | 844 | 845 | 846 | 847 | 848 | 849 | 850 | 851 | 852 | 853 | 854 | 855 | 856 | 857 | 858 | 859 | 860 | 861 | 862 | 863 | 864 | 865 | 866 | 867 | 868 | 869 | 870 | 871 | 872 | 873 | 874 | 875 | 876 | 877 | 878 | 879 | 880 | 881 | 882 | 883 | 884 | 885 | 886 | 887 | 888 | 889 | 890 | 891 | 892 | 893 | 894 | 895 | 896 | 897 | 898 | 899 | 900 | 901 | 902 | 903 | 904 | 905 | 906 | 907 | 908 | 909 | 910 | 911 | 912 | 913 | 914 | 915 | 916 | 917 | 918 | 919 | 920 | 921 | 922 | 923 | 924 | 925 | 926 | 927 | 928 | 929 | 930 | 931 | 932 | 933 | 934 | 935 | 936 | 937 | 938 | 939 | 940 | 941 | 942 | 943 | 944 | 945 | 946 | 947 | 948 | 949 | 950 | 951 | 952 | 953 | 954 | 955 | 956 | 957 | 958 | 959 | 960 | 961 | 962 | 963 | 964 | 965 | 966 | 967 | 968 | 969 | 970 | 971 | 972 | 973 | 974 | 975 | 976 | 977 | 978 | 979 | 980 | 981 | 982 | 983 | 984 | 985 | 986 | 987 | 988 | 989 | 990 | 991 | 992 | 993 | 994 | 995 | 996 | 997 | 998 | 999 | 1000
- (10) Regio Decreto 27 maggio 1875, n. 2552 per l'ordinamento generale degli Archivi di Stato, "Gazzetta Ufficiale", 22 giugno 1875, n. 144.
- (11) http://www.archiviodistatovenetia.it/web/index.php?id=46&no_cache=1 | 110 | 111 | 112 | 113 | 114 | 115 | 116 | 117 | 118 | 119 | 120 | 121 | 122 | 123 | 124 | 125 | 126 | 127 | 128 | 129 | 130 | 131 | 132 | 133 | 134 | 135 | 136 | 137 | 138 | 139 | 140 | 141 | 142 | 143 | 144 | 145 | 146 | 147 | 148 | 149 | 150 | 151 | 152 | 153 | 154 | 155 | 156 | 157 | 158 | 159 | 160 | 161 | 162 | 163 | 164 | 165 | 166 | 167 | 168 | 169 | 170 | 171 | 172 | 173 | 174 | 175 | 176 | 177 | 178 | 179 | 180 | 181 | 182 | 183 | 184 | 185 | 186 | 187 | 188 | 189 | 190 | 191 | 192 | 193 | 194 | 195 | 196 | 197 | 198 | 199 | 200 | 201 | 202 | 203 | 204 | 205 | 206 | 207 | 208 | 209 | 210 | 211 | 212 | 213 | 214 | 215 | 216 | 217 | 218 | 219 | 220 | 221 | 222 | 223 | 224 | 225 | 226 | 227 | 228 | 229 | 230 | 231 | 232 | 233 | 234 | 235 | 236 | 237 | 238 | 239 | 240 | 241 | 242 | 243 | 244 | 245 | 246 | 247 | 248 | 249 | 250 | 251 | 252 | 253 | 254 | 255 | 256 | 257 | 258 | 259 | 260 | 261 | 262 | 263 | 264 | 265 | 266 | 267 | 268 | 269 | 270 | 271 | 272 | 273 | 274 | 275 | 276 | 277 | 278 | 279 | 280 | 281 | 282 | 283 | 284 | 285 | 286 | 287 | 288 | 289 | 290 | 291 | 292 | 293 | 294 | 295 | 296 | 297 | 298 | 299 | 300 | 301 | 302 | 303 | 304 | 305 | 306 | 307 | 308 | 309 | 310 | 311 | 312 | 313 | 314 | 315 | 316 | 317 | 318 | 319 | 320 | 321 | 322 | 323 | 324 | 325 | 326 | 327 | 328 | 329 | 330 | 331 | 332 | 333 | 334 | 335 | 336 | 337 | 338 | 339 | 340 | 341 | 342 | 343 | 344 | 345 | 346 | 347 | 348 | 349 | 350 | 351 | 352 | 353 | 354 | 355 | 356 | 357 | 358 | 359 | 360 | 361 | 362 | 363 | 364 | 365 | 366 | 367 | 368 | 369 | 370 | 371 | 372 | 373 | 374 | 375 | 376 | 377 | 378 | 379 | 380 | 381 | 382 | 383 | 384 | 385 | 386 | 387 | 388 | 389 | 390 | 391 | 392 | 393 | 394 | 395 | 396 | 397 | 398 | 399 | 400 | 401 | 402 | 403 | 404 | 405 | 406 | 407 | 408 | 409 | 410 | 411 | 412 | 413 | 414 | 415 | 416 | 417 | 418 | 419 | 420 | 421 | 422 | 423 | 424 | 425 | 426 | 427 | 428 | 429 | 430 | 431 | 432 | 433 | 434 | 435 | 436 | 437 | 438 | 439 | 440 | 441 | 442 | 443 | 444 | 445 | 446 | 447 | 448 | 449 | 450 | 451 | 452 | 453 | 454 | 455 | 456 | 457 | 458 | 459 | 460 | 461 | 462 | 463 | 464 | 465 | 466 | 467 | 468 | 469 | 470 | 471 | 472 | 473 | 474 | 475 | 476 | 477 | 478 | 479 | 480 | 481 | 482 | 483 | 484 | 485 | 486 | 487 | 488 | 489 | 490 | 491 | 492 | 493 | 494 | 495 | 496 | 497 | 498 | 499 | 500 | 501 | 502 | 503 | 504 | 505 | 506 | 507 | 508 | 509 | 510 | 511 | 512 | 513 | 514 | 515 | 516 | 517 | 518 | 519 | 520 | 521 | 522 | 523 | 524 | 525 | 526 | 527 | 528 | 529 | 530 | 531 | 532 | 533 | 534 | 535 | 536 | 537 | 538 | 539 | 540 | 541 | 542 | 543 | 544 | 545 | 546 | 547 | 548 | 549 | 550 | 551 | 552 | 553 | 554 | 555 | 556 | 557 | 558 | 559 | 560 | 561 | 562 | 563 | 564 | 565 | 566 | 567 | 568 | 569 | 570 | 571 | 572 | 573 | 574 | 575 | 576 | 577 | 578 | 579 | 580 | 581 | 582 | 583 | 584 | 585 | 586 | 587 | 588 | 589 | 590 | 591 | 592 | 593 | 594 | 595 | 596 | 597 | 598 | 599 | 600 | 601 | 602 | 603 | 604 | 605 | 606 | 607 | 608 | 609 | 610 | 611 | 612 | 613 | 614 | 615 | 616 | 617 | 618 | 619 | 620 | 621 | 622 | 623 | 624 | 625 | 626 | 627 | 628 | 629 | 630 | 631 | 632 | 633 | 634 | 635 | 636 | 637 | 638 | 639 | 640 | 641 | 642 | 643 |

- (13) <http://www.archiviodistatomilano.beniculturali.it/> | 一〇 | 五冊 | 〇四九四四號
- (14) <http://archiviodistatorino.beniculturali.it/Site/index.php> | 一〇 | 五冊 | 〇四九四四號
- (15) Giorgio Chittolini, "The Italian city-state and its territory", in *City states in classical antiquity and medieval Italy*, Anthony Molho, Kurt Raatlaub and Julia Emlen, eds., Ann Arbor, University of Michigan Press, 1992, pp. 589-602; Andrea Zorzi, *La trasformazione di un quadro politico: ricerche su politica e giustizia a Firenze dal Comune allo Stato territoriale*, Firenze, Firenze University Press, 2008, pp. 7-55.
- (16) Antonella Rovere, "L'organizzazione burocratica: uffici e documentazione", in Genova, Venezia, il Levante nei secoli XII-XIV, Atti del convegno, Genova 10-14 marzo 2000, *Atti della Società Ligure di Storia Patria*, XLII/1 (2001), pp. 103-128.
- (17) Zorzi, *La trasformazione di un quadro politico*, cit., p. 55.
- (18) Antonio Romiti, *L'armarium comunis della "Camara actorum" di Bologna: l'inventariazione archivistica nel XIII secolo*, Roma, Ministero per i beni culturali e ambientali, Ufficio centrale per i beni archivistici, 1994, pp. CCXXXV-CCXLIII; Giorgio Tamba, *La società dei notai a Bologna*, Roma, Ministero per i beni culturali e ambientali, Ufficio centrale per i beni archivistici, 1988, pp. 21-33; Marino Berengo, "Lo studio degli atti notarili dal XIV al XVI secolo", in *Atti del Congresso Internazionale tenuto in occasione del 90 ° Anniversario della fondazione dell'Istituto Storico Italiano*, 1883-1973, Roma 22-27 ottobre 1973, Roma, 1976, vol. 1, pp. 149-172.
- (19) Attilio Bartoli Langelii, "Il notariato", in Genova, Venezia, *il Levante nei secoli XII-XIV*. Atti del convegno, Genova 10-14 marzo 2000, *Atti della Società Ligure di Storia Patria*, XLII/1 (2001), pp. 73-102.
- (20) Alessandro Pratesi, *Genesi e forme del documento medievale*, Roma, Jouvence, 1979, p. 39.
- (21) Gli atti originali della cancelleria veneziana, a cura di M. Pozza, Venezia, Il Cardo, 1994, vol. I (1090-1198), nn. 3-10 - redazione di sette notai diversi.
- (22) Marco Pozza, "La cancelleria", in *Storia di Venezia dalle origini alla caduta della Serenissima*, II: Il Comune, a cura

- di Giorgio Cracco e Gherardo Ortalli, Roma, 1995, pp. 349-369. 史料の生産 "La produzione in libro"
- (23) Ibid., cap. 2. "La documentazione cancelleresca".
- (24) Andrea Giorgi e Stefano Moscadelli, "«Ut ipsa acta illesa serventur». Produzione documentaria e archivi di comunità nell'alta e media Italia tra medioevo ed età moderna", in *Archivi e comunità tra Medioevo ed Età Moderna*, a cura di Attilio Bartoli Langeli, Andrea Giorgi e Stefano Moscadelli, Roma, Ministero per i Beni e le Attività Culturali, Direzione generale per gli archivi, 2009, pp. 1-110. 史料の生産 pp. 22, 89.
- (25) Guida generale degli Archivi di Stato, vol. 4: S-Z, "Archivio di Stato di Venezia", a cura di Maria Francesca Tiepolo, Roma, Ministero per i beni culturali e ambientali, Ufficio centrale per i beni archivistici, 1994, pp. 869-870.
- (26) Guida generale degli Archivi di Stato, vol. 2: F-M, "Archivio di Stato di Firenze", a cura di Giuseppe Pansini, Roma, Ministero per i beni culturali e ambientali, Ufficio centrale per i beni archivistici, 1983, pp. 27-30. 史料の生産の発展? Richard Buckley Litchfield, *Emergence of a Bureaucracy. The Florentine Patrician, 1530-1790*, Princeton, Princeton University Press, 1986, pp. 11-62.
- (27) Ibid., "Archivio di Stato di Milano", a cura di Alfio R. Natale, p. 897.
- (28) "Archivio di Stato di Venezia", cit., pp. 924-925; Marino Angeli, *Legum venetarum compilatarum methodus*, Venezia, Apud Pinellum typographum ducalem, 1687-1688, vol. 2.
- (29) Guida generale degli Archivi di Stato, vol. 4: S-Z, "Archivio di Stato di Torino", a cura di Isabella Massabò Ricci, Roma, Ministero per i beni culturali e ambientali, Ufficio centrale per i beni archivistici, 1994, pp. 384-390.
- (30) "Archivio di Stato di Milano", cit., pp. 902-913.
- (31) "Archivio di Stato di Firenze", cit., pp. 32-37.
- (32) "Archivio di Stato di Torino", cit., pp. 376-377. 一六三〇年ローマの歴史の転換点の歴史? Alessandra Contini, "Organizzazione di archivi e riforme nel Settecento", in *Archivi e storia nell'Europa del XIX secolo*, cit., pp. 231-248.
- (33) "Archivio di Stato di Milano", cit., pp. 897-898. 史料の生産の発展? Andrea Visone, "L'istituzione di archivi separati

- per i documenti diplomatici nel secolo XIX in Italia e in altri nuovi Stati nazionali europei", in *Archivi e storia nell'Europa del XIX secolo*, cit., pp. 730-735.
- (34) Guido Pampaloni, "L'archivio diplomatico fiorentino (1778-1852). Note di storia archivistica", *Archivio storico italiano*, CXXIII (1965), pp. 177-221.
- (35) Marco Crassi e Isabella Ricci Massabò, "I dilemmi dell'archivista ottocentesco tra strategie politiche, orientamenti storiografici e doveri professionali: il caso del Piemonte", in *Archivi e storia nell'Europa del XIX secolo*, cit., pp. 411-421.
- (36) Adele Bellù, "Note e documenti per la storia degli archivi lombardei e milanesi. 1) L'Archivio pubblico (sec. XVII). 2) L'Archivio diplomatico (sec. XIX in.)", in *Archivio storico lombardo*, s. IX, VIII (1969), pp. 381-402.
- (37) Francesca Cavazzana Romanelli, "Dalle venete leggi ai sacri archivi. Modelli di organizzazione della memoria documentaria alle origini dell'Archivio dei Frari", in *Storia, archivi, amministrazione. Atti delle giornate di studio in onore di Isabella Zanni Rosiello*, Bologna, 16-17 novembre 2000, a cura di Carmela Binchi e Tiziana Di Zio, Roma, Ministero per i beni e le attività culturali, Direzione generale per gli archivi, 2004, pp. 241-268.
- (38) http://san.beniculturali.it/web/san/home?sessionid=489F547BE800B3241C5A2BFDFC0524CD:sanapp01_portal
 二〇一五年 | 〇四九四閱覽
- (39) <http://www.icar.beniculturali.it/index.php?it/193/sistema-informativo-degli-archivi-di-stato-sias> | 〇 | 五冊 | 〇
 月九日閱覽
- (40) <http://san.beniculturali.it/web/san/it-sistema-archivistico-nazionale> | 二〇一五年 | 〇月九日閱覽